

## 優秀賞



設計担当者

納谷 学

納谷建築設計事務所、東京建築士会

公衆便所、無料休憩所／兵庫県尼崎市

### 尼崎パーキングエリア

構造 | 鉄骨造

階数 | 地上1階

敷地面積 | 2,980.87㎡

建築面積 | 922.29㎡

延べ面積 | 694.5㎡

竣工 | 平成31年3月14日



1

1 阪神高速3号神戸線上り・高架上、距離料金導入に伴い廃止された料金所跡地に建つ。遠景には六甲山系が見える

## 選評

阪神高速道路3号線の高架上に建てられたパーキングエリアの計画である。

ユーザーの立場からパーキングエリア(PA)やサービスエリア(SA)と呼ばれる高速道路上に設けられた休憩施設の印象は、場違いに商業施設とした外観、その下に広がるショッピングセンターのような漠としたスケールの空間、その脇に設けられた家畜飼育場のように羅列されたトイレ、それらの前に車最優先でプランニングされた駐車場が広がった施設といったものではないだろうか。他では見かけない不思議な建築タイプである。例外はあろうが、多くのPAやSAがこの形式で「あたりまえ」のように建てられているためか、普段我々はその形式に疑いを持つことはない。だが本計画を訪れた瞬間に、こうした「あたりまえ」に対する疑問が頭を擡げ出した。

ここではまず、極めて制約が厳しい敷地なが

ら、騒音の激しい高速道路本体や加速クレーンから距離をとり、PA/SAの本来の目的である「静寂」を生み出そうとしている。駐車スペースも、車主体であった高速道路上とは対をなす人間主体の場所であるべきPA/SAらしく、車を降りてから建屋に入るまで、車道を横断することなく行き来ができるゾーニングになっている。こんな当たり前のことが他のPA/SAでは実現していないことに気づかされた。

この結果、建物は細長い線形となるが、PA建築の最大のテーマとも言えるトイレではこの線形を活かして、緑豊かで快適な個室ブースによりトイレ休憩だけでも楽しめる人間らしい施設になっている。家畜の飼育場のように羅列されたトイレとは真逆の空間が生まれている。

さらに細長い施設を、途中で屈曲させて加速ゾーンからの騒音を施設の存在そのもので遮り、限られた敷地の中に豊かな緑を車からは

遮断された憩いの場として設けてあるのだが、これは線形上の細長い施設の伸びやかさを失うことなく、歩く人の動線を短縮することにも寄与している。

これらのアイデアは巧みに擦りあわせられ、PA/SAにありがちなショッピングセンターのようなスケール感ではなく、小ぶりな平屋の断面にまとめられ「人間のための施設」となっているのだが、同時に、長い線形の全体像は高速道路のスピード感にもリエゾンしたデザインにもなっている。

建築家の熟練した経験は、とかくディテールや仕上げに収束しがちであるが、ここでは全体の建築計画に収束し、PSやSAの在り方を批判し考えさせる強いメッセージやプロトタイプとして結晶しているように感じた。

(山梨知彦)



2



3



4



5



6

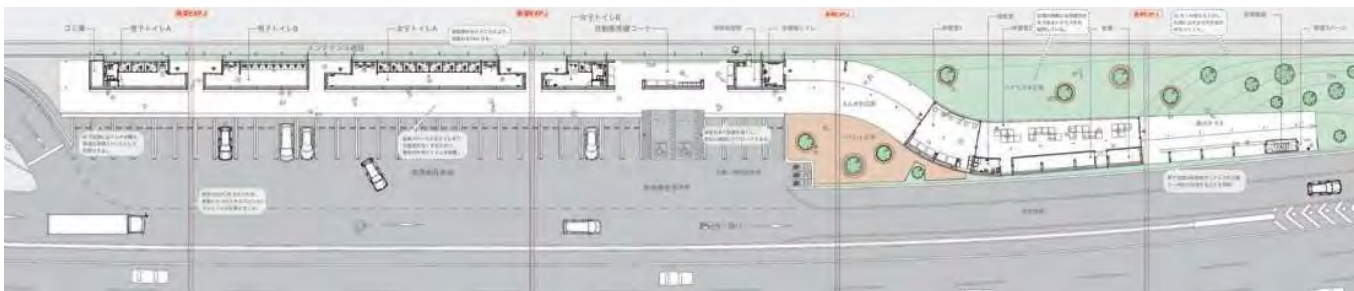
- 2 外観夕景。高架のエキスパンションジョイントをまたぐため、建築には4つのエキスパンションジョイントが必要になった
- 3 イベント広場。クランクした庇が喧噪と静寂を緩やかに分ける
- 4 休憩室1。建築をクランクさせたことで、建築と緑化フェンスに挟まれた静かな広場が生まれた
- 5 休憩室2・クランクによって生まれた広場に面する
- 6 森のテラス。1mほどかさ上げし、植樹や緑地を設けることを可能にしたハナミズキ広場と一体で使用できる
- 7 トイレ内部。高架のエキスパンションジョイントをかわすためトイレのコアを4つに分けて配置した



7



ダイアグラム



平面図